

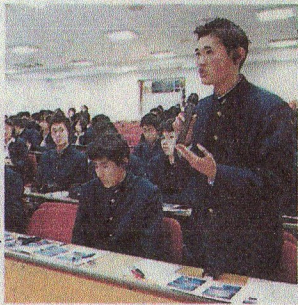
# 高校生にEU講座

## 駐日広報部長ら講演

高千里蘭金

高校生が欧州連合（EU）の歴史や現状について海外の専門家らに学ぶ講演会が23日、吹田市の私立金蘭千里高校であった。文化も言語も異なる欧州諸国が一つの枠組みを持つに至った経緯を学び、日本の今後を考えてほしいという研究者の呼びかけに、2年生の生徒約150人は食い入るように聴き入っていた。

講演会はEUインスティテュート関西（EUIJ関西、神戸市灘区）が主催し、朝日新聞社などが共催した。EUIJ関西は、関西におけるEUの学術研究拠点として、神戸大や関西学院大、大阪大が2005年に欧州委員会の資



フィロン部長に質問する生徒  
吹田市、伊藤菜々子撮影

金援助を受けて設立。高校生対象の企画は今回が初めて。

27カ国が加盟するEUについて、ルディ・フィロン駐日EU広報部長が単一市場や通貨統合などの特徴を説明。ジュネーブ大のティモシー・ハーディング名誉教授は人権救済機関の欧州人権裁判所を取り上げ、囚人の投票権や拷問の禁止などこれまでの実績を紹介した。

生徒からは「EU加盟を認めるかどうか、その国の宗教は影響を与えるのか」といった質問が次々飛び出し、講演終了後も講師を囲むなど盛り上がった。楊麻美さんは「国際的に活躍する看護師に憧れている。もっと世界に目を向けたい」と話した。

企画した松繁寿和・大阪大大学院教授は「自分とは文化も言語も異なる人と仲良くしよう、それがEUの思想。いじめやシカトをするレベルで世の中は動いていない。心の窓をもっと世界に開いて」と締めくくった。（机美鈴）

2011(平成23)年

2月24日

朝日新聞